



The Heart of Industry

2022年3月期 決算説明資料

2022年5月19日

株式会社イワキ

証券コード：6237
銘柄名：イワキポンプ



新製品
小型液体ダイヤフラムポンプ HSRシリーズ「HSR-80」

主要用途：医療機器市場、各種産業機器等

I . 2022年3月期 決算概要	・・・P 3
II . 2023年3月期 業績見通し	・・・P 16
III . 育成期 中期経営計画について	・・・P 26
IV . Appendix	・・・P 33

I . 2022年3月期 決算概要

上場来最高の売上高・最終利益を達成。半導体・液晶市場向けが全体を牽引。

	2021.3期		2022.3期	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年比)
売上高	28,162	32,439	4,277	+15.2%
売上総利益 (売上総利益率)	9,703 (34.5%)	11,029 (34.0%)	1,326	+13.7%
営業利益 (営業利益率)	1,706 (6.1%)	2,139 (6.6%)	432	+25.4%
経常利益	2,222	2,992	770	+34.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,091	2,396	305	+14.6%
1株当たり 当期純利益	94.90 円	109.37 円	14.47 円	+15.2%
自己資本当期純利益率 (ROE)	9.7%	10.1%	—	(+0.4pt)
為替レート (期中平均)	ドル	106.77 円	109.90 円	
	ユーロ	121.88 円	129.91 円	

1 売上高：上場来最高額となる32,439百万円を達成。

- ✓4Q会計期間売上高8,512百万円。直前四半期の売上高を更新し、上場来最高額の四半期売上高を達成。
- ✓市場別売上高では、医療機器市場、新エネルギー市場以外の市場で上場来最高額の通期売上高を達成。
- ✓医療機器市場は海外（主に中国）の回復ペースがまだ鈍い。国内は好調であった3Q比では減少となるものの、4Q予算達成と順調に推移。
- ✓イワキルディックグループ（以下、ING）売上高影響は以下の通り。
 - 2021年3月期累計 648百万円（連結調整前）※前期は3Qより損益取込み開始
 - 2022年3月期累計 1,399百万円（ 同上 ）※今期は通期全てで取込み

2 営業利益：前年比+25.4%、2,139百万円。

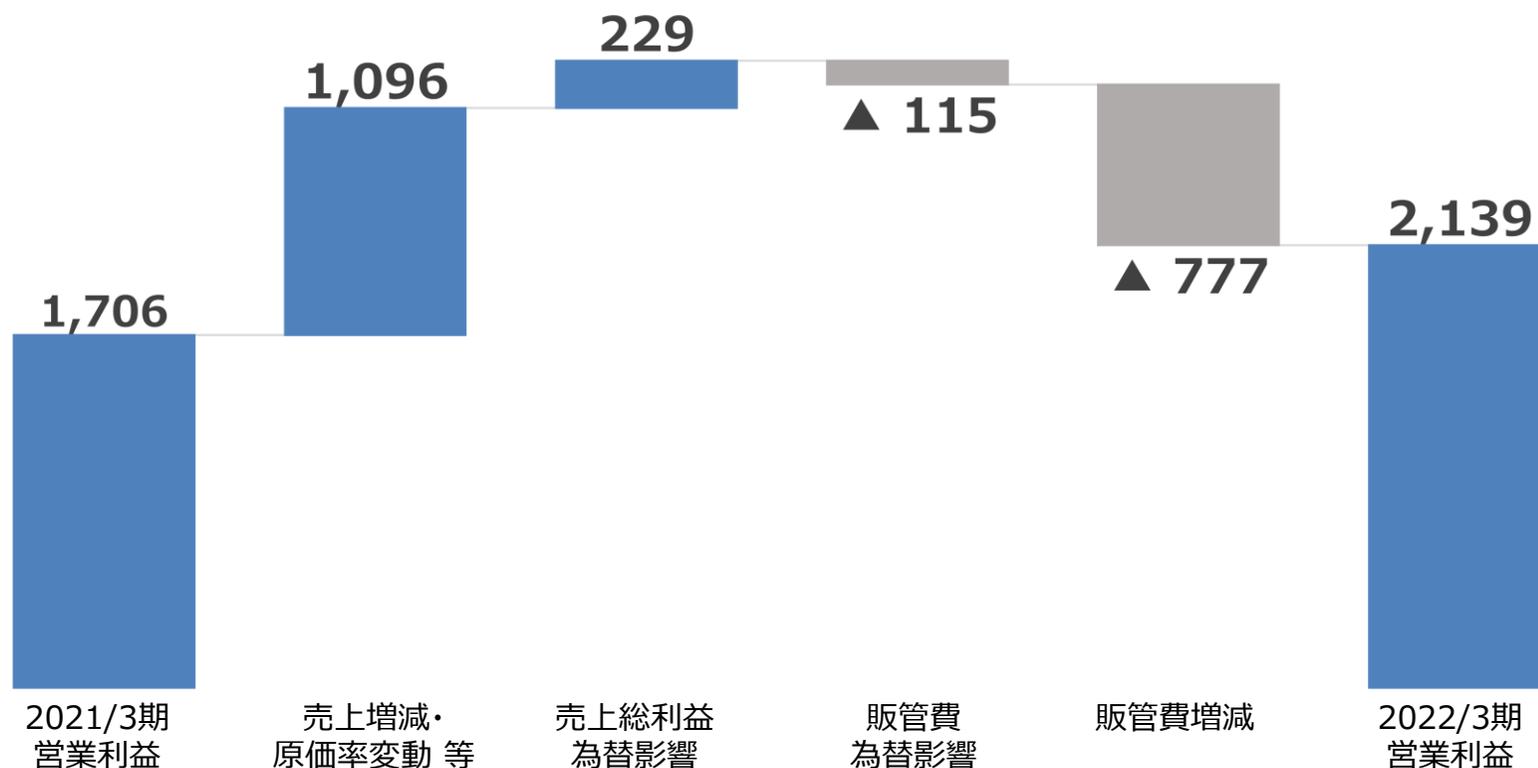
- ✓セールスマックス（空気駆動ポンプ売上構成比増）及び連結調整影響、製造経費の増加などより売上原価率上昇するも、増収効果により売上総利益は前年比+13.7%の11,029百万円となる。
- ✓販管費について、
 - ・ING販管費全体 前年比 +316百万円（前期累計279百万円 ⇒ 今期累計596百万円）。
 - ・INGのれん償却費 同比 +43百万円（前期累計38百万円 ⇒ 今期累計82百万円）。上記ING損益取込み時期相違による差額のほか、賞与引当金繰入額や輸出入費などの費用が増加した結果、営業利益は前年比+25.4%の2,139百万円となる。

3 親会社株主に帰属する当期純利益：上場来最高益となる2,396百万円を達成。

- ✓韓国、台湾、上海を中心に関係会社業績も順調に推移。持分法による投資利益も前年比+57.4%と大幅伸長。

為替 1 円当たりの感応度	\$ (USドル)	€ (ユーロ)
売上	54 百万円	28 百万円
営業利益	16 百万円	10 百万円

(百万円)



4 2022年3月期 新型コロナウイルスに関する主な影響等について

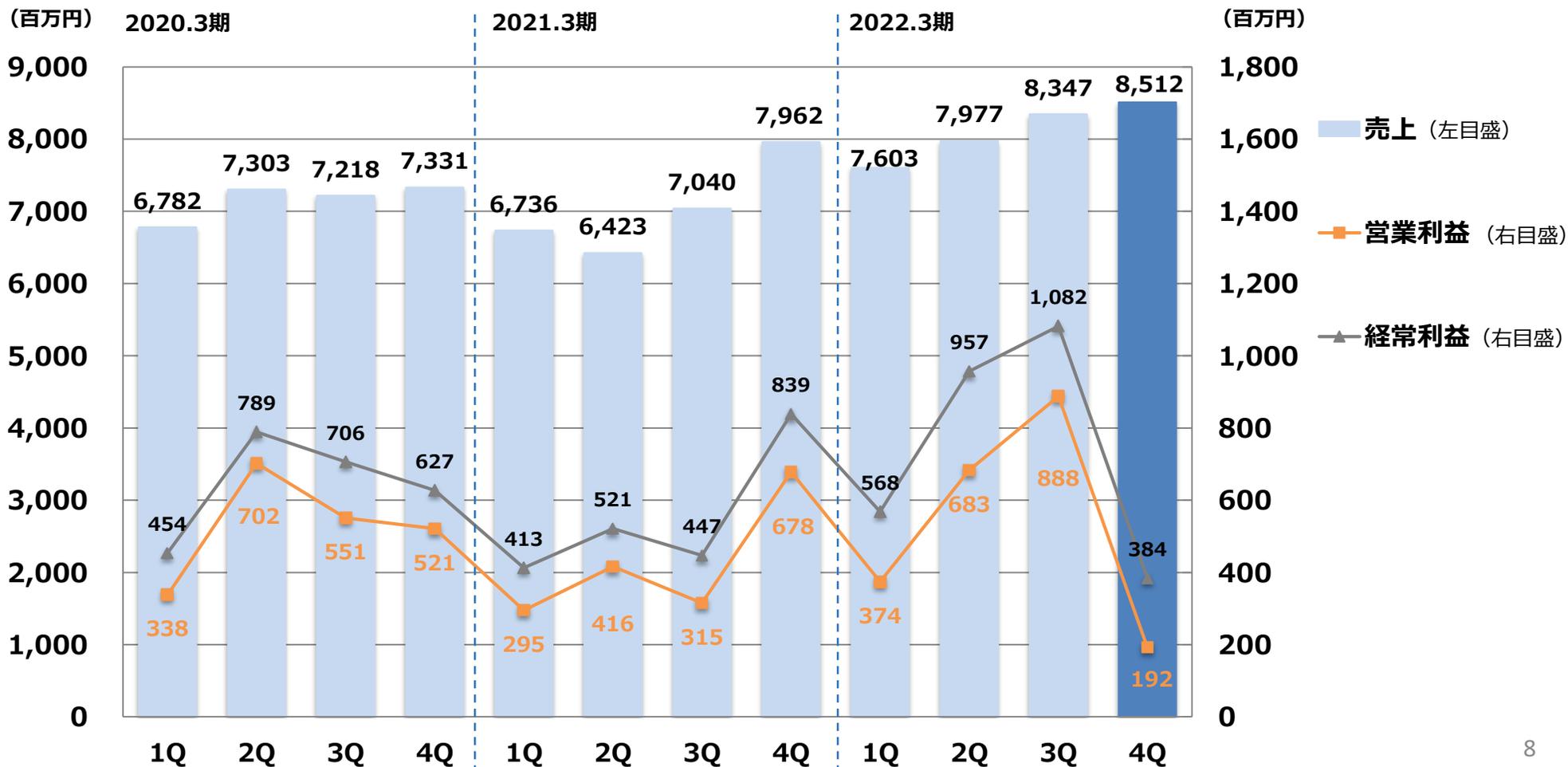
物流混乱、部品調達難の状況は依然として継続中。

※ 赤字はネガティブな影響

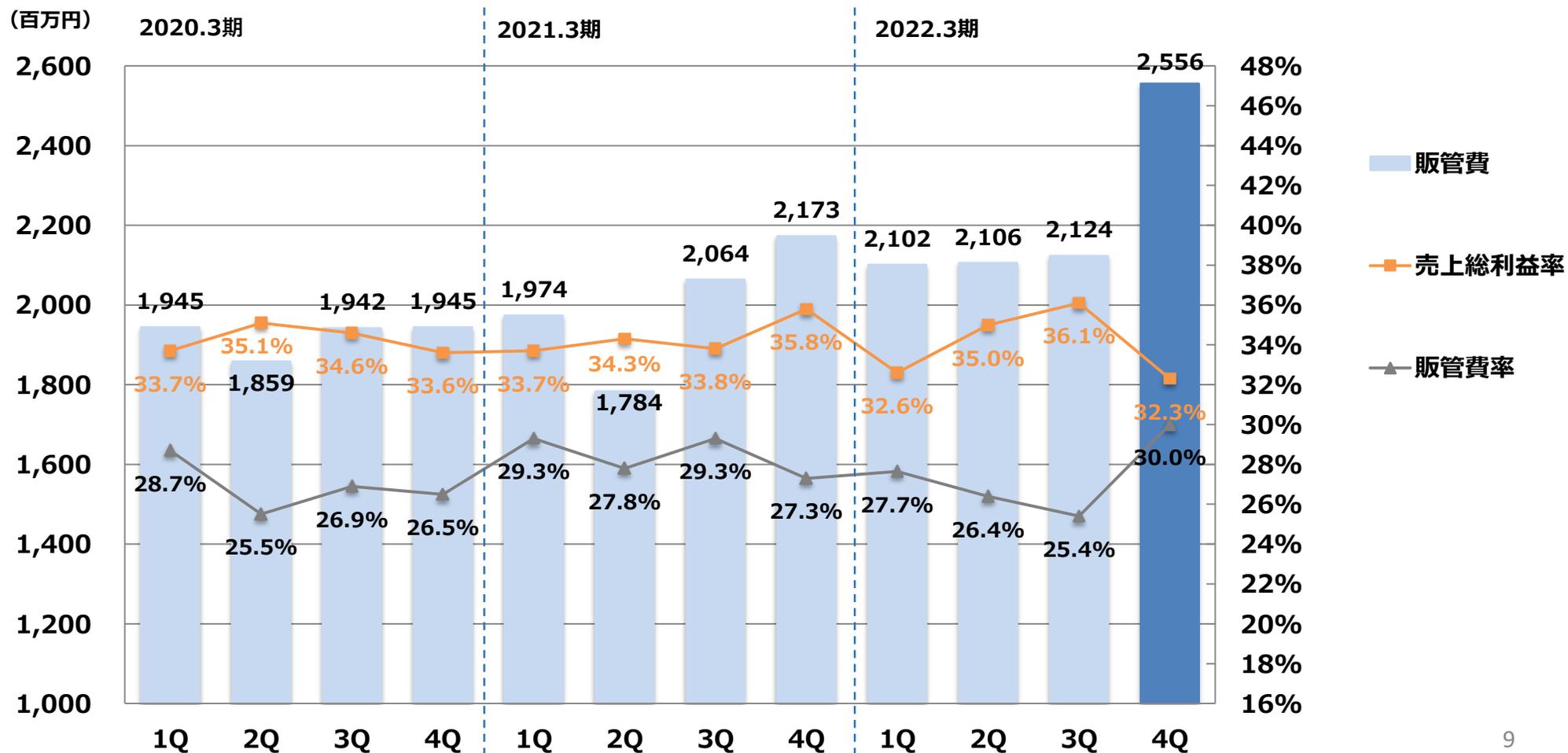
	営業面 (メンテナンス含)	生産・調達面	業績関連トピックス	感染状況	当社における 主な感染対策等
国内	通常稼働 顧客訪問制限有	1Q 生産：通常稼働 調達：生産への影響なし	・医療機器メンテをはじめ、現場訪問復調しつつある一方、緊急事態宣言による訪問制限も続く	・3度目の緊急事態宣言 発出	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務の導入 ・時差・輪番出勤 ・執務時ソーシャルディスタンスの確保 ・健康管理の徹底
		2Q 生産：通常稼働 調達：東南アジアロックダウンによる部品調達懸念	・受注は順調に推移 ・訪問制限や一部案件延期等、影響も継続	・4度目の緊急事態宣言 発出	
		3Q 生産：通常稼働 調達：モータ中心に厳しい状況は継続	・受注は順調に推移 ・感染下火状況も、一部訪問制限残る	・新規感染者数減少、低い水準継続 ・変異株の発生、感染再拡大懸念	
		4Q 生産：通常稼働 調達：モータ調達の長納期継続	・受注は順調に推移 ・感染再拡大により訪問制限続く	・変異株による感染再拡大	
海外	通常稼働 顧客訪問制限有	1Q 生産：通常稼働 調達：生産への影響なし	・出荷停滞していたプロジェクター冷却向け案件復調 ・アメリカ向けを中心に国際物流の混乱続く ・マレーシアロックダウンによる受注減	・ワクチン接種が進むにつれて規制緩和傾向へ ・マレーシア感染拡大に伴うロックダウン続く	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務の導入 ・輪番出勤 ・執務時ソーシャルディスタンスの確保 ・健康管理の徹底 ・国や地域のガイドラインに沿った各種感染予防策等
		2Q 生産：通常稼働 調達：コンテナ不足による輸送コスト増	・アメリカ、ヨーロッパを中心に順調な受注状況 ・海外向け物流状況が更に悪化 ・マレーシアロックダウン解除、緩やかな回復	・東南アジア厳しいロックダウン状況継続	
		3Q 生産：通常稼働 調達：2Qより状況変わらず	・欧米向け好調維持 ・アメリカ向けを中心に物流は改善の状況見えず	・変異株の発生、感染再拡大	
		4Q 生産：通常稼働 調達：コンテナ不足による出荷遅れ続く 中国ロックダウンによる出荷遅れ	・欧州 コロナ禍で停滞していた案件復調	・欧米 行動規制は緩和傾向へ ・中国 ロックダウンによる厳しい移動制限	

5 売上高・営業利益の推移（四半期ベース）

4Q会計期間売上高は上場来最高額を達成。
 連結子会社決算期ズレによる連結調整額の拡大や賞与増額に伴う引当計上などの影響により、
 同期間の利益は従前水準より低い結果となる。



主に賞与増額に伴う引当計上の影響により販管費増額となる。

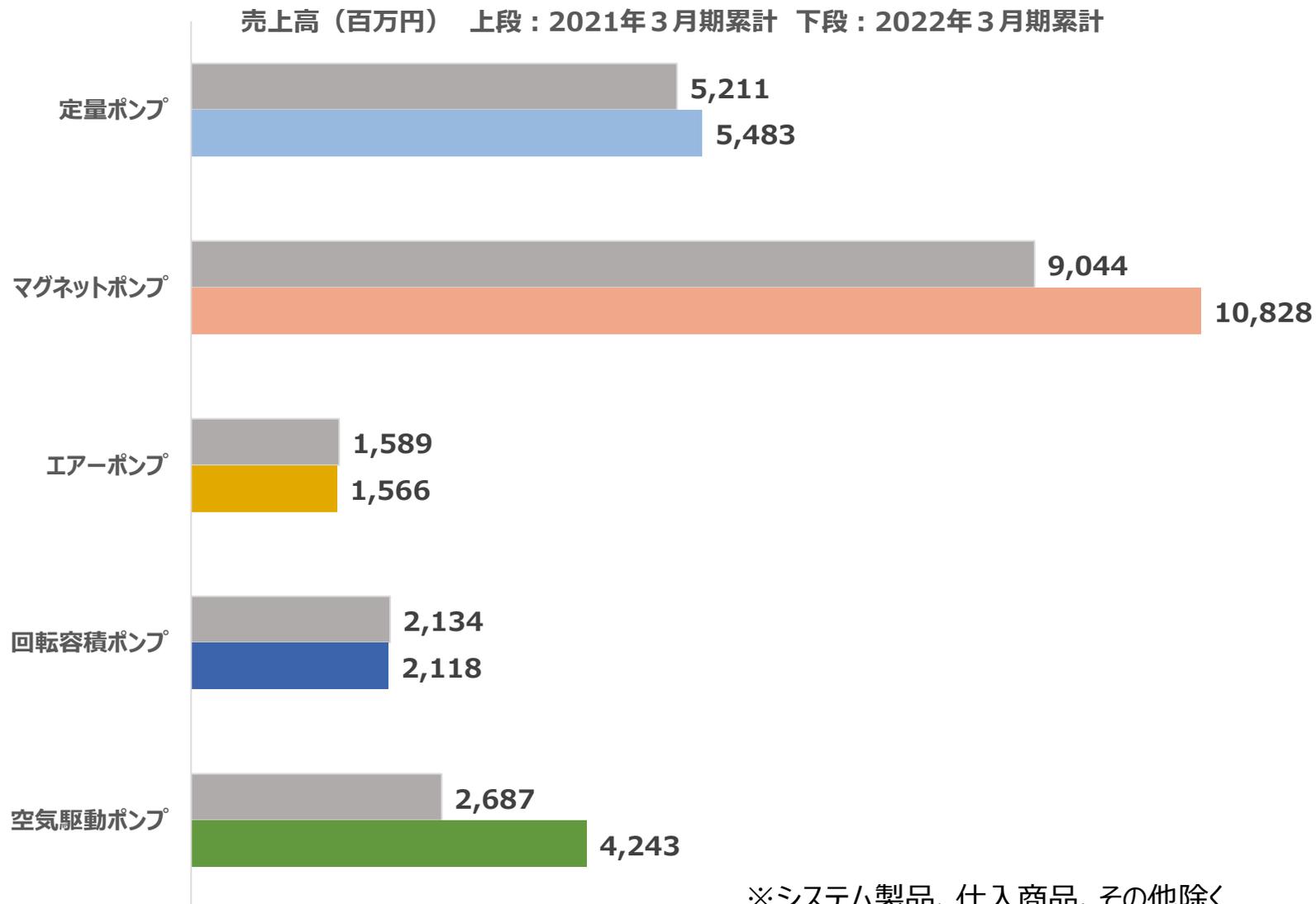
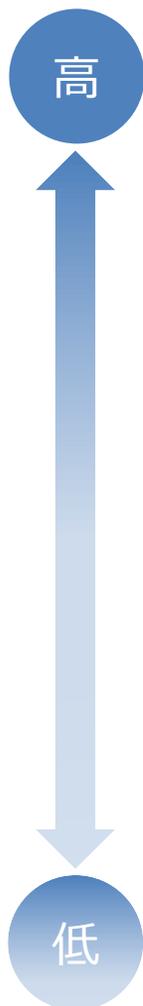


7 製品別 販売市場について

マルチ市場 への販売	主なポンプ 用途	マグネット ポンプ 	定量ポンプ 	空気駆動 ポンプ 	回転容積 ポンプ 	エアー ポンプ 	システム 製品 
半導体・ 液晶市場	半導体製造装置 他	●	○	●			○
医療機器市場	人工透析装置 臨床分析装置 他	○	○		●	●	○
表面処理装置 市場	プリント基板製造装置 電子部品製造 他	●	○				○
化学市場	化学薬液製造 他	●	○		○		○
水処理市場	浄水場 排水処理場 クーリングタワー 他	○	●		○	○	○
新エネルギー 市場	再生可能エネルギー 二次電池製造 他	○	○		●		○
その他 (食品・製紙等)	食品洗浄 各種冷却用途 他	○	○		●	○	○

※ 塗りつぶし：各市場におけるメインポンプ

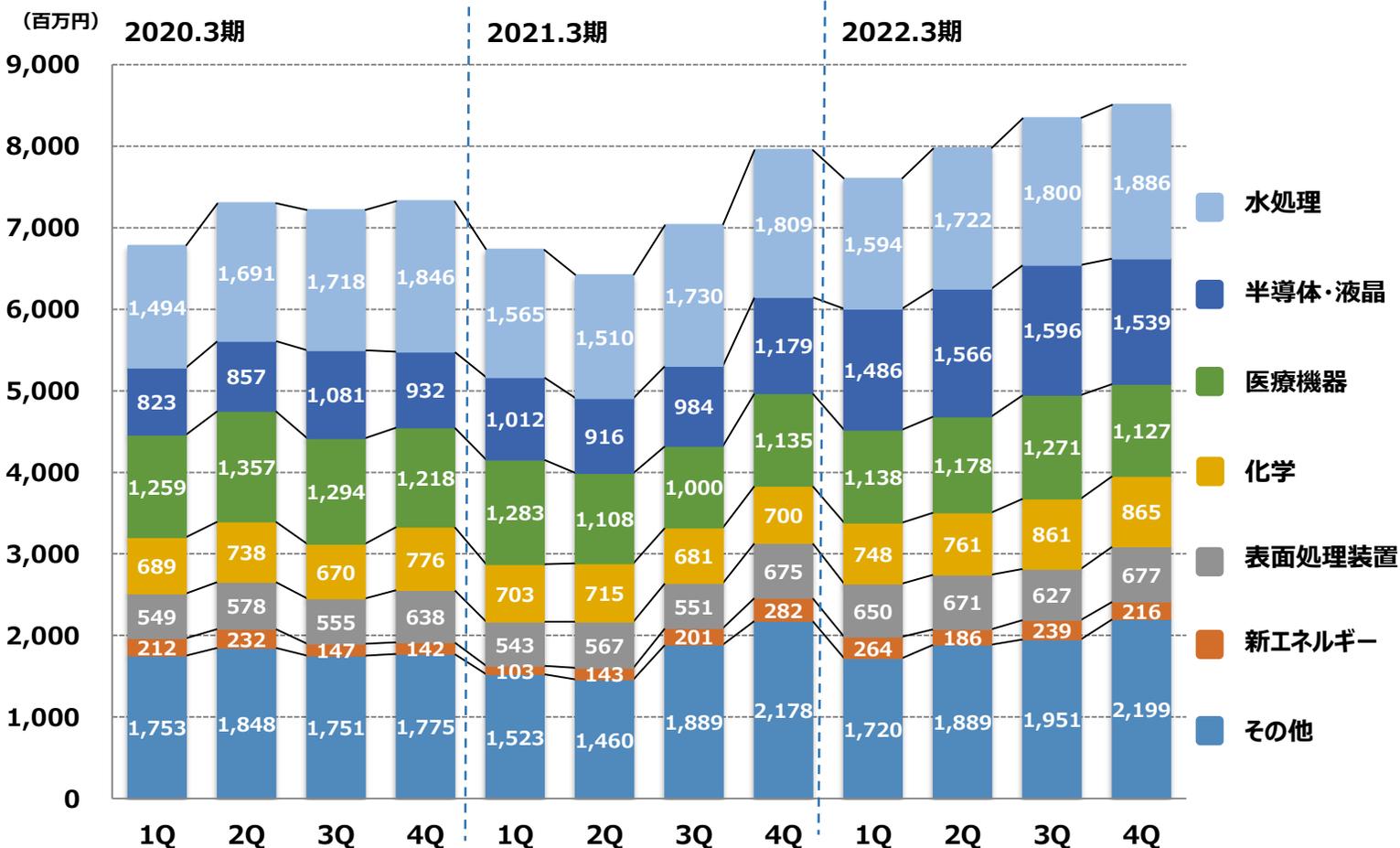
収益性の高・低



※システム製品、仕入商品、その他除く

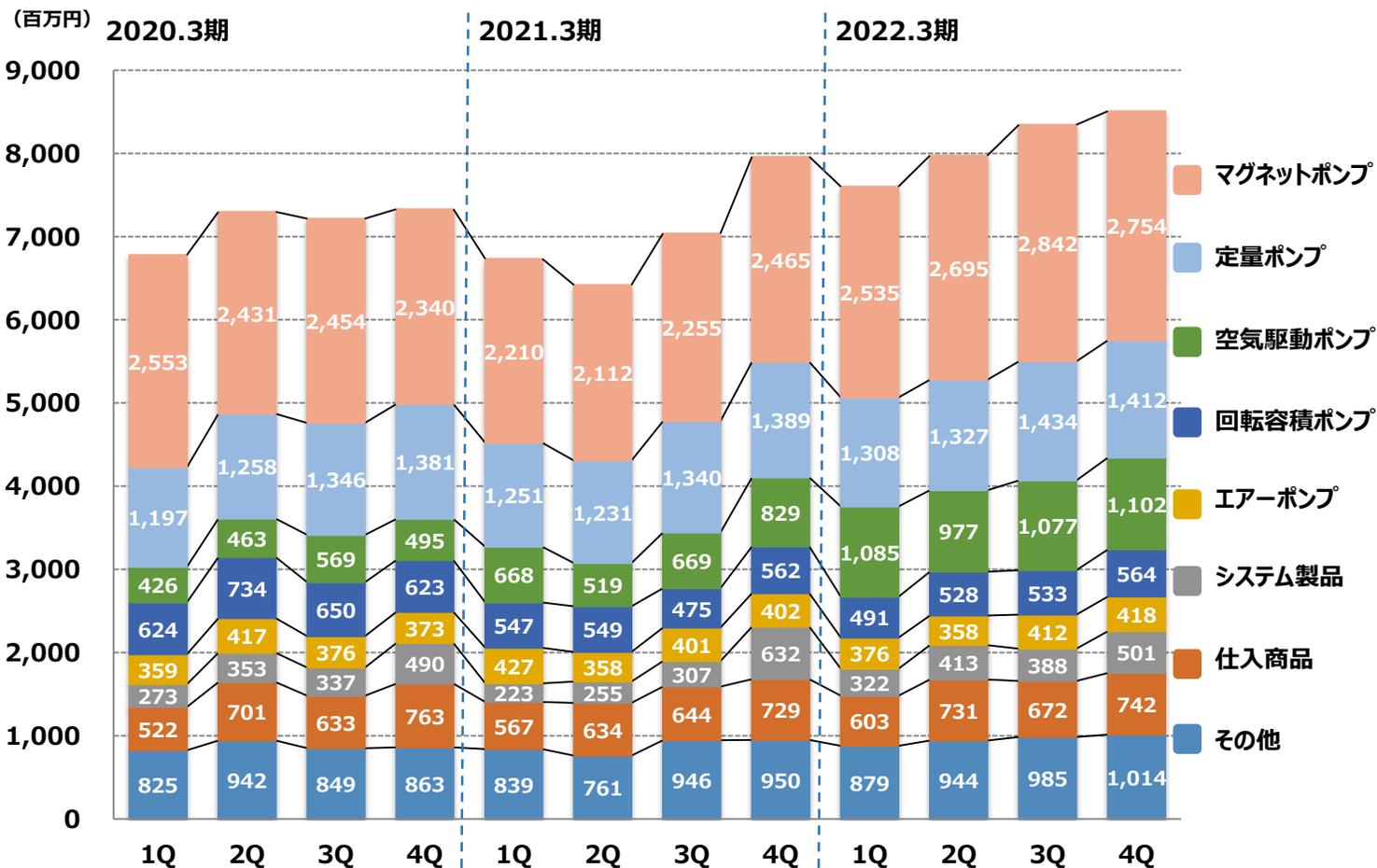
全ての市場で前年比増収となる。

医療機器市場、新エネルギー市場以外の市場では上場来最高となる通期売上高を達成。



	2022年3月期 累計金額 (百万円)	前年差額 (百万円)	増減率 (前年比)
水処理	7,003	387	+5.8%
半導体・液晶	6,189	2,096	+51.2%
医療機器	4,715	187	+4.1%
化学	3,237	436	+15.6%
表面処理装置	2,626	288	+12.3%
新エネルギー	907	175	+24.0%
その他	7,759	706	+10.0%

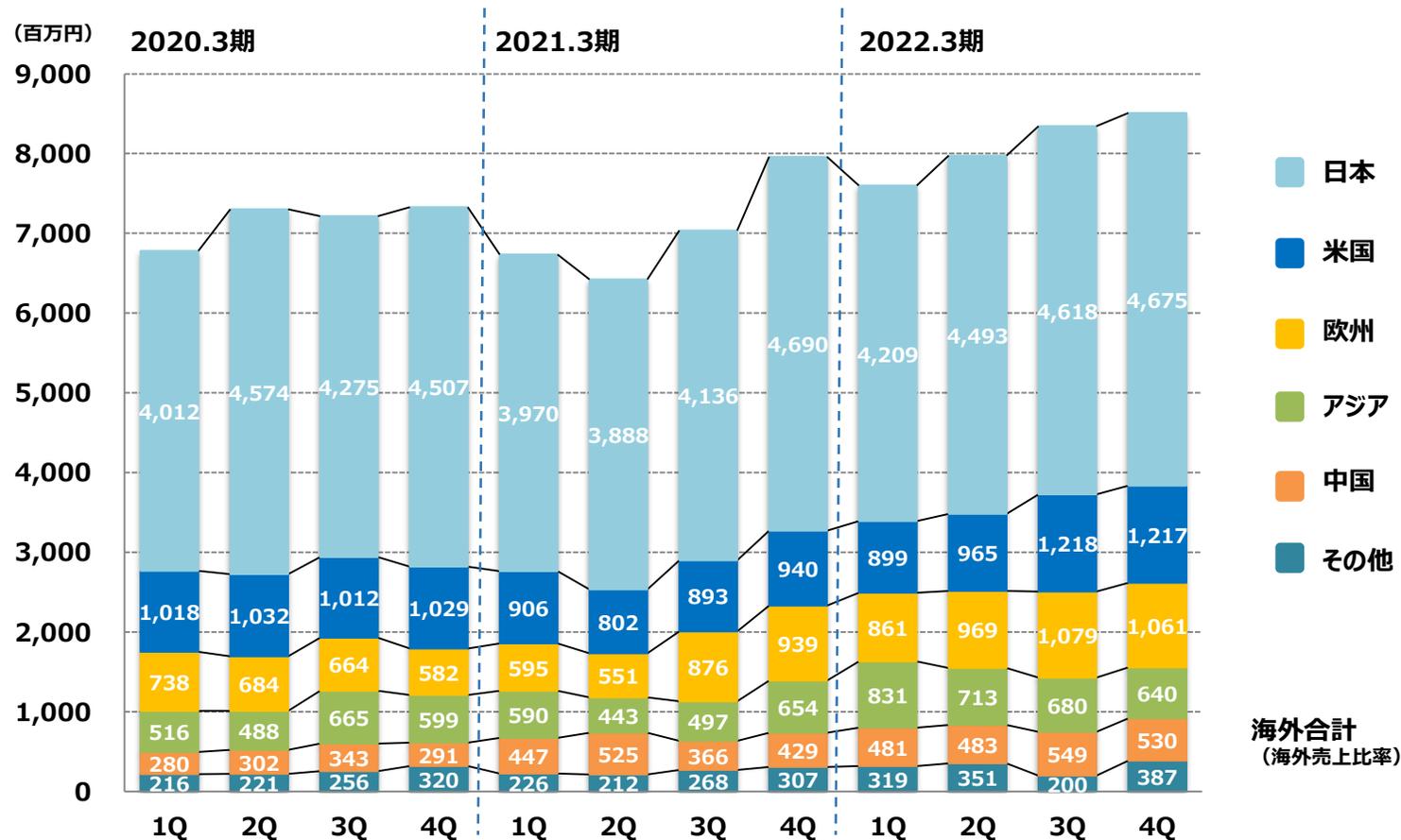
医療機器市場向けメイン製品である回転容積ポンプ、エアポンプは低調だが、その他の製品群については、それぞれ上場来最高となる通期売上高を達成。



2022年3月期 累計金額 (百万円)	前年差額 (百万円)	増減率 (前年比)
10,828	1,783	+19.7%
5,483	271	+5.2%
4,243	1,555	+57.9%
2,118	▲16	▲0.8%
1,566	▲23	▲1.5%
1,625	205	+14.5%
2,750	174	+6.8%
3,824	325	+9.3%

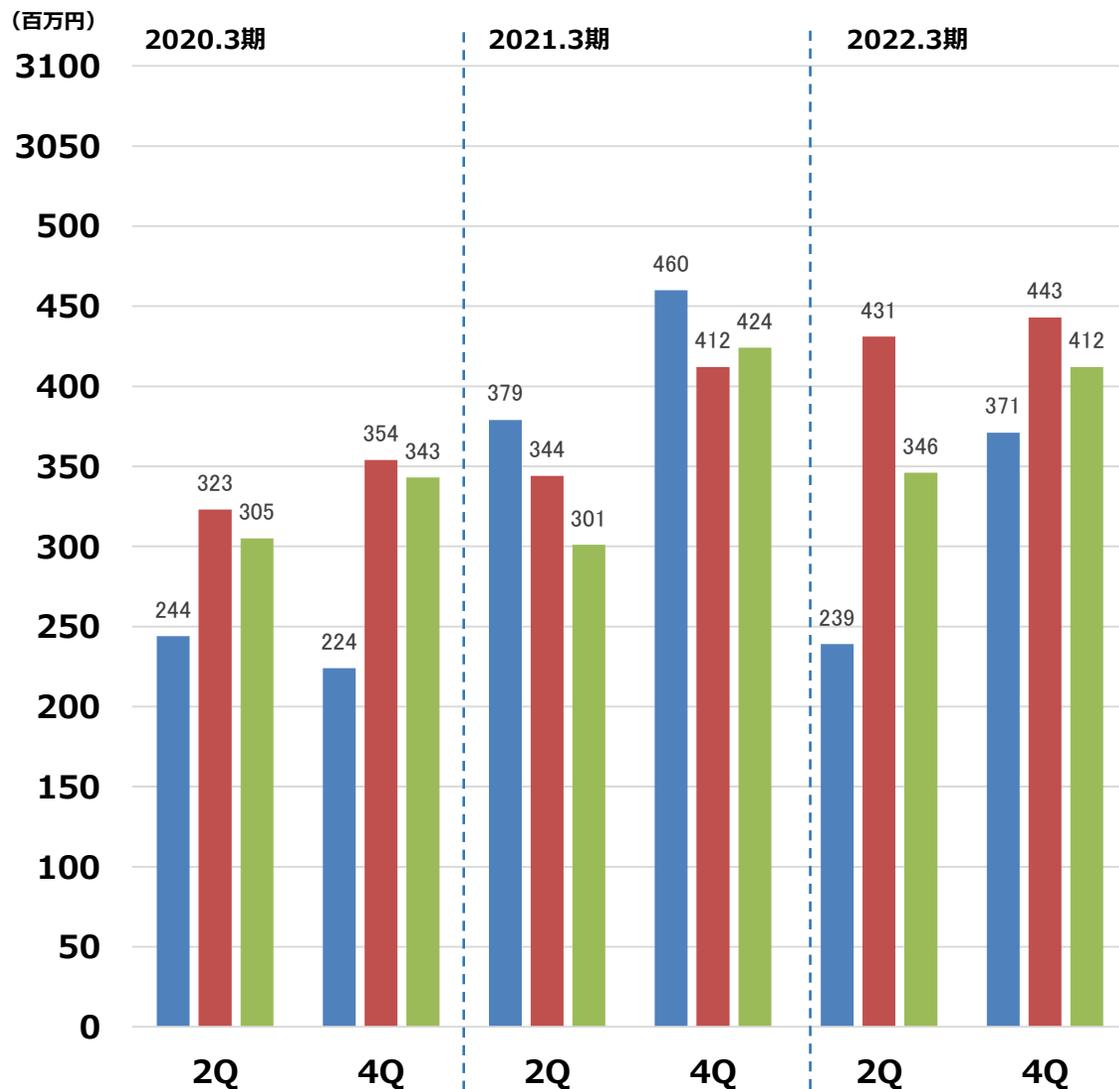
11 地域別売上高

海外向け全地域で上場来最高となる通期売上高を達成。
国内も半導体・液晶市場向けを中心に順調に推移。



	2022年3月期 累計金額 (百万円)	前年差額 (百万円)	増減率 (前年比)
日本	17,997	1,311	+7.9%
米国	4,301	757	+21.4%
欧州	3,972	1,008	+34.0%
アジア	2,865	678	+31.1%
中国	2,044	275	+15.6%
その他	1,259	245	+24.2%
海外合計 (海外売上比率)	14,442 (44.5%)	2,965	+25.8%

12 設備投資・研究開発費・減価償却費推移（半期毎）



	2022.3月期 累計金額 (百万円)	増減額 (前年比)
■ 設備投資	611	▲228
■ 研究開発費	875	+118
■ 減価償却費	759	+33

Ⅱ. 2023年3月期 業績見通し

部品調達・物流面の懸念あるも、現時点の受注状況等を勘案し、前年比増収・増益を見込む。

	2022.3期		2023.3期 (予)	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年比)
売上高	32,439	34,830	2,390	+7.4%
売上総利益 (売上総利益率)	11,029 (34.0%)	12,034 (34.6%)	1,004	+9.1% (+0.6pt)
営業利益 (営業利益率)	2,139 (6.6%)	2,748 (7.9%)	608	+28.5% (+1.3pt)
経常利益	2,992	3,411	419	+14.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,396	2,547	151	+6.3%
1株当たり 当期純利益	109.37 円	116.31 円	6.94 円	+6.3%
自己資本当期純利益率 (ROE)	10.1%	9.8%	—	(▲0.3pt)
為替レート (期中平均)	ドル	109.90 円	(想定レート) 114.00 円	
	ユーロ	129.91 円	(想定レート) 130.00 円	

1 売上高 34,830百万円（前年比+7.4%、+2,390百万円）

- ✓半導体・液晶市場向け需要は2022年3月期に続き高水準維持を想定。
- ✓アメリカを中心に水処理市場向けの需要増を想定。
- ✓医療機器市場向けは回復傾向にあるものの、装置メーカー側の調達・物流面での懸念あり。
- ✓現時点における受注状況も堅調に推移していることから、2023年3月期も増収を見込む。

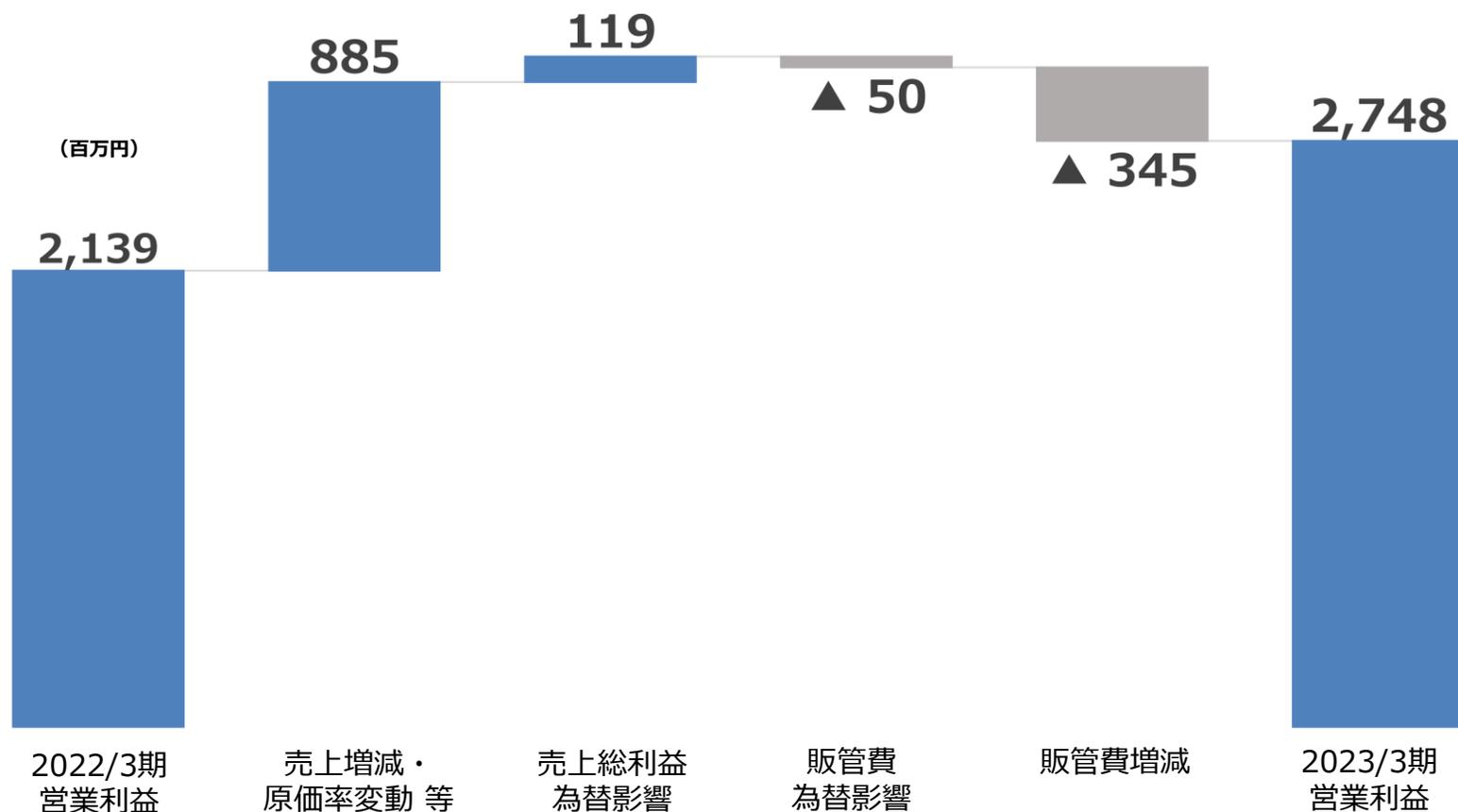
2 営業利益 2,748百万円（前年比+28.5%、+608百万円）

- ✓値上げ実施により調達価格の高騰分は相殺される前提としており、売上高材料費率は従前水準を想定。
- ✓原価面（製造経費）では生産体制再構築に伴う物流委託費用等を中心に費用増加を見込む。
- ✓販管費面では、展示会費用、人員増強による人件費、コロナ影響緩和による旅費交通費の経費戻り分等の増加を見込む。
- ✓業績予想の想定レート（期中平均）は直近の円安影響を織り込まず。
（当社、円安傾向の場合、増益となるため現状保守的な見込みとしている。）

3 親会社株主に帰属する当期純利益 2,547百万円（前年比+6.3%、+151百万円）

- ✓持分法による投資利益は関係会社からの提出予算をベースに算定。
- ✓2022年3月期同水準の特別利益発生は見込まず。
- ✓結果、営業利益段階での増益幅より縮小するものの、最終利益段階でも前年比増益を見込む。

為替 1 円当たりの感応度	\$ (USドル)	€ (ユーロ)
売上	59 百万円	31 百万円
営業利益	18 百万円	12 百万円



全体的に良好な市場環境を想定しているが、**調達難や物流の混乱**による影響が懸念される。

強化市場

各市場	国内	海外
水処理市場	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートワーク推進に伴う遠隔操作用コントローラの需要が高まる ・食の安心安全の観点より植物工場が伸張 ・コロナによる延期案件の実行等により前年比増 	<ul style="list-style-type: none"> ・水処理膜を利用した装置やシステムが好調 ・殺菌用途の需要が堅調
医療機器市場	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床検査装置（免疫分析装置+生化学分析装置） 昨年低迷分の回復傾向が高まるが、各社とも部材調達が難航しており、回復が遅れている ・内視鏡洗浄装置向けが代替需要で回復基調 ・人工透析装置のメンテナンス需要回復・代替需要も回復基調 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国 臨床検査装置（免疫分析装置+生化学分析装置）向けは復調の兆しあるが、各社とも物流の混乱や部品調達の難航により、装置生産に影響が出ている
新エネルギー市場	<ul style="list-style-type: none"> ・セルメーカ、電池リサイクルなどで投資計画が活発 ・家庭用燃料電池は計画案件が動き出し一部需要回復 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア市場で二次電池の需要が堅調
半導体・液晶市場	<ul style="list-style-type: none"> ・当該製造装置メーカー向け需要が好調 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモリ、ファウンドリ向け設備投資が順調
化学市場	<ul style="list-style-type: none"> ・高付加価値製品の開発堅調 ・環境規制による樹脂リサイクル等による需要が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州・アジアで二次電池材料の製造投資が活発 ・米国・アジアで半導体向け薬品製造投資が堅調
表面処理装置市場	<ul style="list-style-type: none"> ・5G対応、IoT市場向けなど高付加価値電子部品の需要拡大 ・車載用途は、自動車の挽回生産により回復基調 	<ul style="list-style-type: none"> ・車載用やICT関連の電子部品が世界的に需要拡大 ・パッケージ基板の設備投資が好調

5 2023年3月期 市場別売上高予想

全市場増収。半導体・液晶市場向けは引き続き高水準の受注状況維持を見込む。

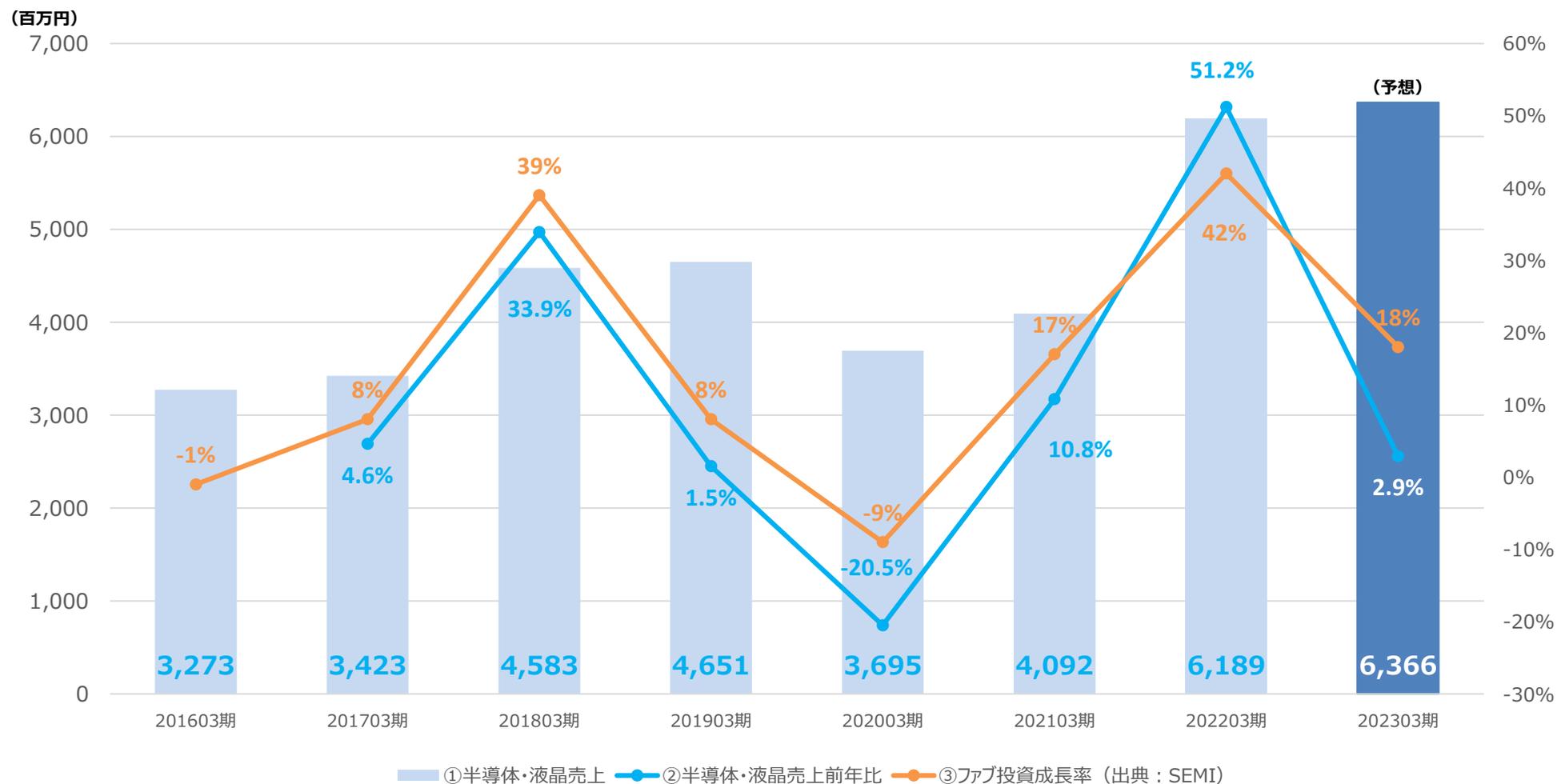
	2022年3月期 実績 (百万円)	2023年3月期 予想 (百万円)	差額	増減率 (前年比)
水処理	7,003	7,864	861	+12.3%
半導体・液晶	6,189	6,366	176	+2.9%
医療機器	4,715	4,964	249	+5.3%
化学	3,237	3,559	322	+10.0%
表面処理装置	2,626	2,741	114	+4.4%
新エネルギー	907	1,124	217	+24.0%
その他	7,759	8,208	448	+5.8%
合計	32,439	34,830	2,390	+7.4%

6 2023年3月期 製品別売上高予想

市場別売上予想を受け、製品別においても全製品群での増収を見込む。

	2022年3月期 実績 (百万円)	2023年3月期 予想 (百万円)	差額	増減率 (前年比)
マグネットポンプ°	10,828	11,802	974	+9.0%
定量ポンプ°	5,483	5,892	408	+7.4%
空気駆動ポンプ°	4,243	4,486	243	+5.7%
回転容積ポンプ°	2,118	2,202	84	+4.0%
エアーポンプ°	1,566	1,651	85	+5.5%
システム製品	1,625	1,701	75	+4.7%
仕入商品	2,750	2,847	96	+3.5%
その他	3,824	4,246	421	+11.0%
合 計	32,439	34,830	2,390	+7.4%

市場環境は好調だが、当該市場向け製品に関する部品調達面に課題残る。

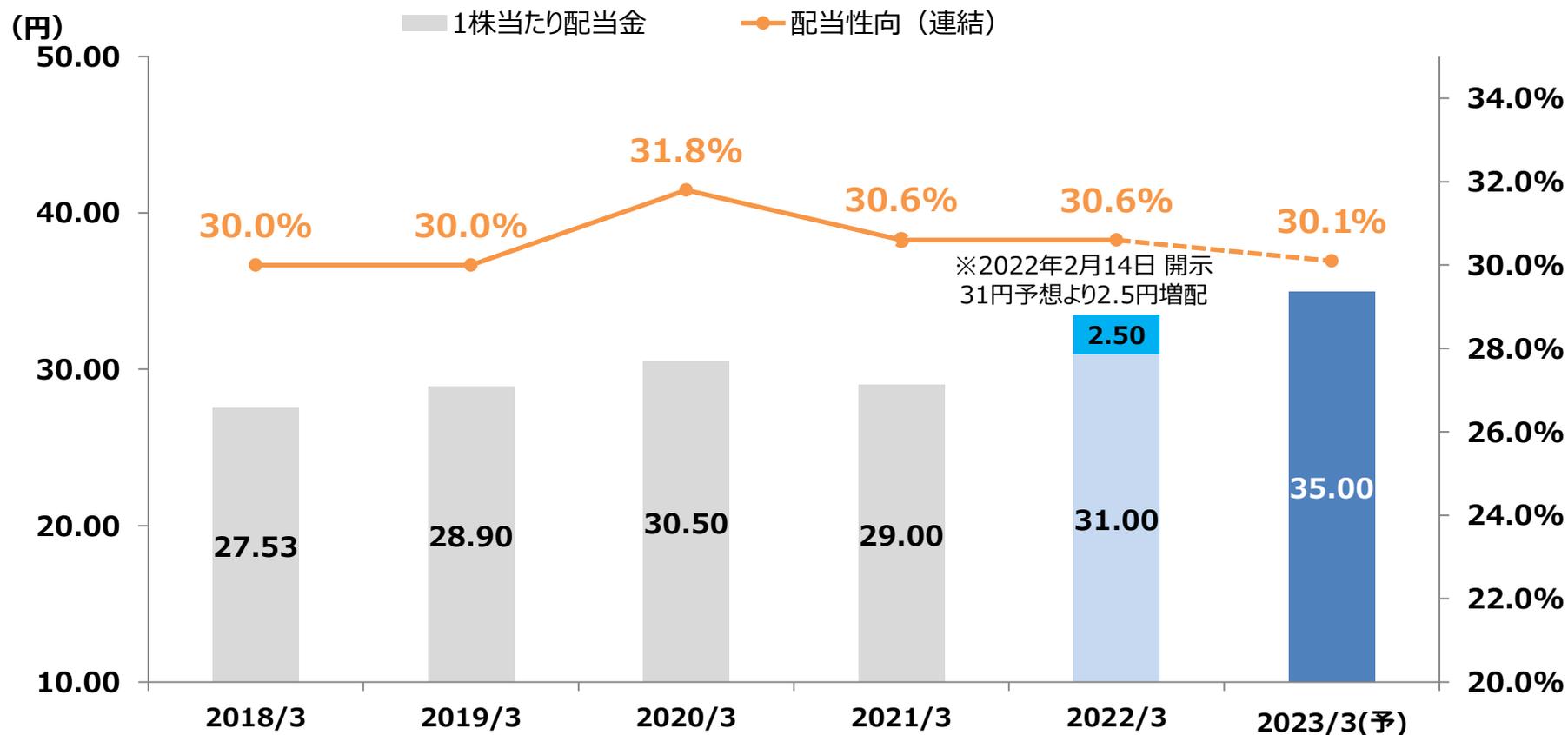


※ ③ファブ投資成長率は「2015年」データを「201603期」へ適用（「2016年」以降同様）としております。

基本方針

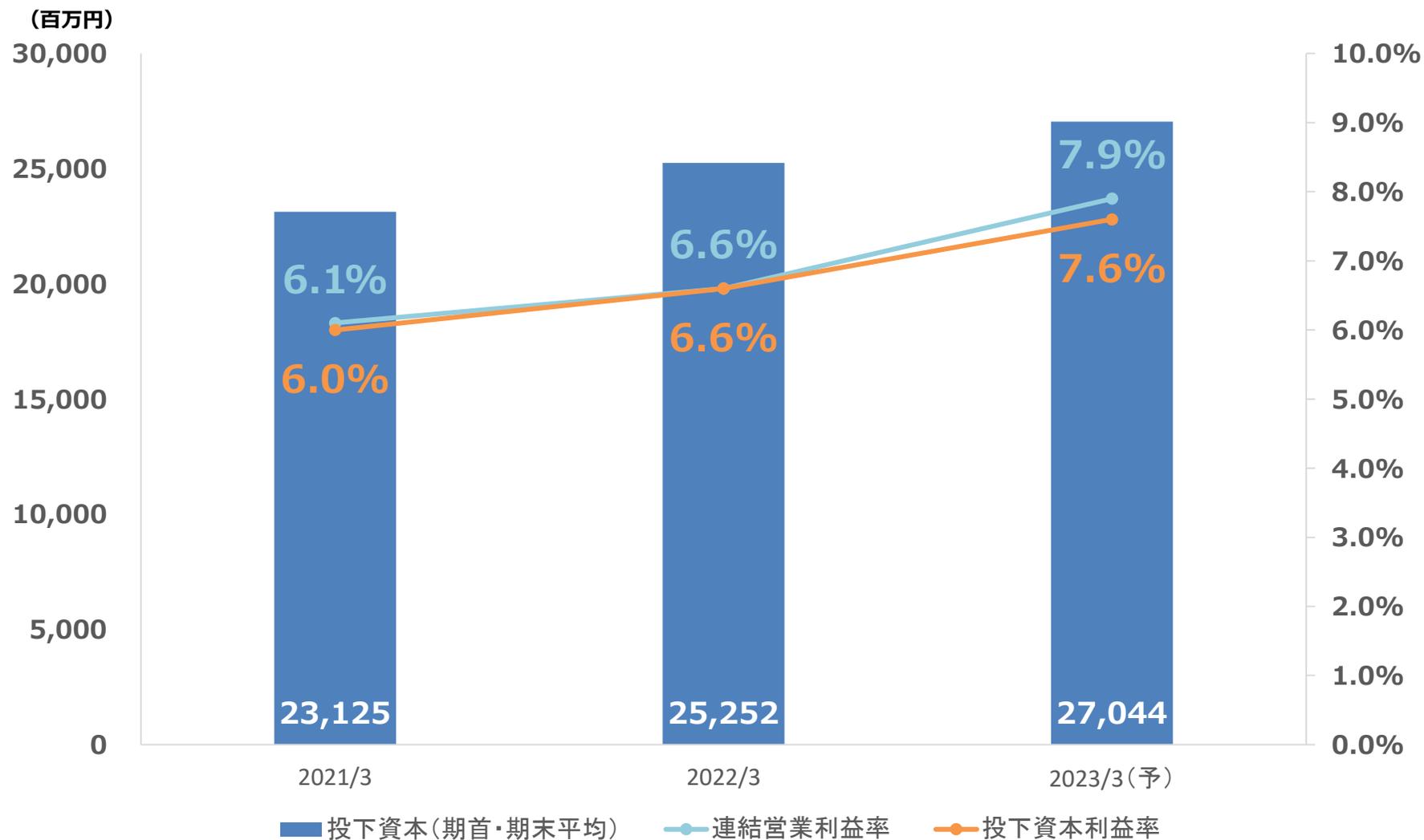
・配当性向30%超

・安定的な配当



(注) 2018/3は株式の3分割を考慮し、算定しています。(小数点第三位以下は切捨)

当該指標の活用により、更なる企業価値向上を目指す。



Ⅲ. 育成期 中期経営計画について

種蒔期			育成期			収穫期		
2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期

連結売上高



連結営業利益率



※2021/11/12 2022年3月期
第2四半期決算説明資料 中計数値

以降、継続して10%超の水準を維持

定量目標

定性目標

「オールイワキで世界No.1を提供する」

～ グループ一丸となり、世界No.1の製品、品質、価値、サービスを提供する ～

目標を達成するための姿勢「チェンジ&チャレンジ」

～ 変革と挑戦に躊躇しない企業文化の定着を目指す ～

持続的に成長する企業として
企業価値向上を目指した成長戦略の推進

育成期における重点実施項目として以下、主な重点テーマを設定

10年ビジョン定量目標達成に向けたテーマ

- 1) 生産体制の再構築
- 2) 生産及び販売計画の精度向上
- 3) 不具合の撲滅
- 4) 全社の生産性向上

持続的な企業価値向上に視点を置いた 経営の推進に関するテーマ

- 1) 人事制度の抜本的な見直し
- 2) 基幹システムの刷新
- 3) IoTの活用
- 4) CSR活動

10年ビジョン定量目標を達成するための具体的各種施策の設定

重点テーマ	育成期における主な実施内容	取込状況	今後の課題
生産体制の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル生産課題の抽出及び設備投資計画の作成 ・外部倉庫活用による納期短縮の実現 ・物流機能外部委託による、生産特化体制への移行検討・実施 ・生産体制再構築プロジェクト発足 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーンマネジメントの強化 ・更なる納期短縮への取組み ・原価低減
生産及び販売計画の精度向上	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客情報共有、部門間協業体制推進 ・プロセス用途分 計画精度向上についての検討 ・フォーキャスト制度運用開始による出荷保留品低減 ・先行して医療機器市場、半導体・液晶市場向けなどの各種計画精度の向上実現 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・協業体制の継続強化 ・計画精度向上に向けた検討継続 ・海外マーケット調査(コロナ禍により停滞) ・調達長納期化による遅延解消
不具合の撲滅	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト体制による不具合撲滅の推進 ・K P I の設定 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・当該プロジェクト継続推進 ・設定 K P I の達成
全社の生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・外部倉庫活用による工場内スペース確保、作業改善 ・各種業務システムの導入 (得意先管理、人事労務、予算管理、RPA活用) ・自動組み立てロボット導入 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ノンコア業務へのシステム導入拡大 ・ロボット化の水平展開

※オレンジ枠：優先度高

【取組状況評価】

○：達成見込み or 順調に進捗、△：進捗若干遅れ、▲：進捗遅れ、×：進捗なし

持続的な企業価値向上に視点を置いた経営の推進

重点テーマ	育成期における主な実施内容	取込状況	今後の課題
人事制度の抜本的な見直し	<ul style="list-style-type: none"> 人事評価制度の見直し検討 執行役員、本部長に対する目標管理制度導入 	△	<ul style="list-style-type: none"> 従業員賃金、評価制度の具体的変更案の検討、合意形成 女性管理職の登用
基幹システムの刷新	<ul style="list-style-type: none"> システム選定完了、導入に向けたプロジェクトスタート システム導入に向けた各業務フローの見直し 	△	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト推進 2024年3月期運用開始目標
I o T の活用	<ul style="list-style-type: none"> 水処理コントロールによるモニタリング、管理 R P A 導入による業務工数削減 	△	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスモデルの構築 モノづくりへの展開 R P A 導入推進
CSR活動	<ul style="list-style-type: none"> 環境法規制に対応した製品の提供 (RoHS指令/REACH規制 等) 環境に配慮した製品開発 (高効率製品開発 等) 従業員教育 取締役、執行役員などに対するサステナビリティ研修の実施 	△	<ul style="list-style-type: none"> 従業員教育継続 RoHS/REACH対応拡大 サステナビリティへの対応、取組み強化

※オレンジ枠：優先度高

【取組状況評価】

○：達成見込み or 順調に進捗、△：進捗若干遅れ、▲：進捗遅れ、×：進捗なし

現10年ビジョン ~2025年3月期

定量目標

連結売上高
400億円連結売上高営業利益率
10%

定性目標

「オールイワキで世界No.1を提供する」

目標を達成するための姿勢
「チェンジ&チャレンジ」次期長期ビジョン策定に向けた
プロジェクト

「新ビジョン策定プロジェクト」

2022年4月発足

2023年3月期

事業構想

サステナビリティ

社会課題の解決による持続可能な社会の実現と持続的な企業価値向上を両立させることの重要性が高まっている中、サステナビリティの観点を踏まえた経営を推進していくべく同プロジェクト発足。

サステナビリティを

- ・市場への新たな価値提供の機会
- ・改めて社会的責任を果たす立場にある企業として取り組むべき事として認識。

これまで以上に非財務情報にフォーカスし、企業価値向上ならびに将来財務情報に繋げていくべく、当社における課題・あり方を検討する。

2024年3月期～

新ビジョン検討へ

課題・あり方

2023年3月期プロジェクト検討結果をもとに、次期長期ビジョンの検討に入る。

検討結果の内、先行して対応すべきものについては、現10年ビジョン期（～2025年3月期）内の中期経営計画等に盛り込む。

IV. Appendix

会社名

株式会社イワキ (英文名 IWAKI CO., LTD.)

ケミカルポンプ[®]の専門・総合メーカー**設立**

1956年4月10日

代表取締役社長

藤中 茂

本社

東京都千代田区神田須田町二丁目6番6号

資本金

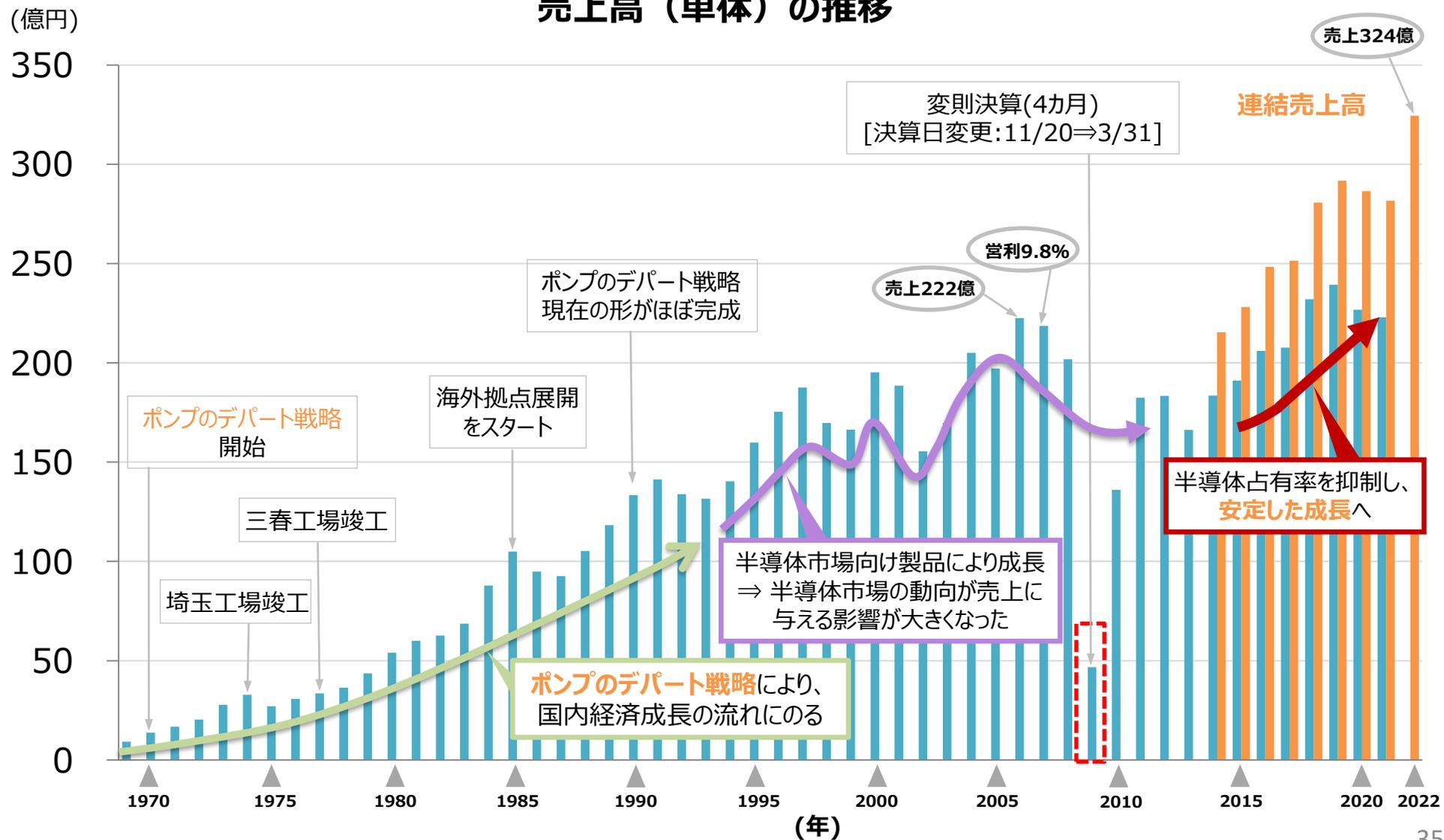
10億4,469万円 (2022年3月末現在)

従業員数

連 結 : 1,007人 / 単 体 : 781人 (ともに、2022年3月末現在)

事業内容ケミカルポンプ及びポンプ専用コントローラ等の周辺機器の
開発・製造、仕入及び販売 等**上場取引所**東京証券取引所
(銘柄名 : イワキポンプ / 証券コード : 6237 / 市場 : 東証プライム市場)

売上高（単体）の推移



ケミカルポンプ[°] = 化学薬品等の薬液移送に使用されるポンプ[°]



水を扱うポンプとは異なり、
ケミカルポンプは主に薬液等の移送時に使用される。
中には(人体に有害な硫酸等)危険な液体もあるため



非常に高い安全性が求められる
(漏れないこと)

1

お客様の様々な要望にお応えできる
豊富な製品ラインナップ

2

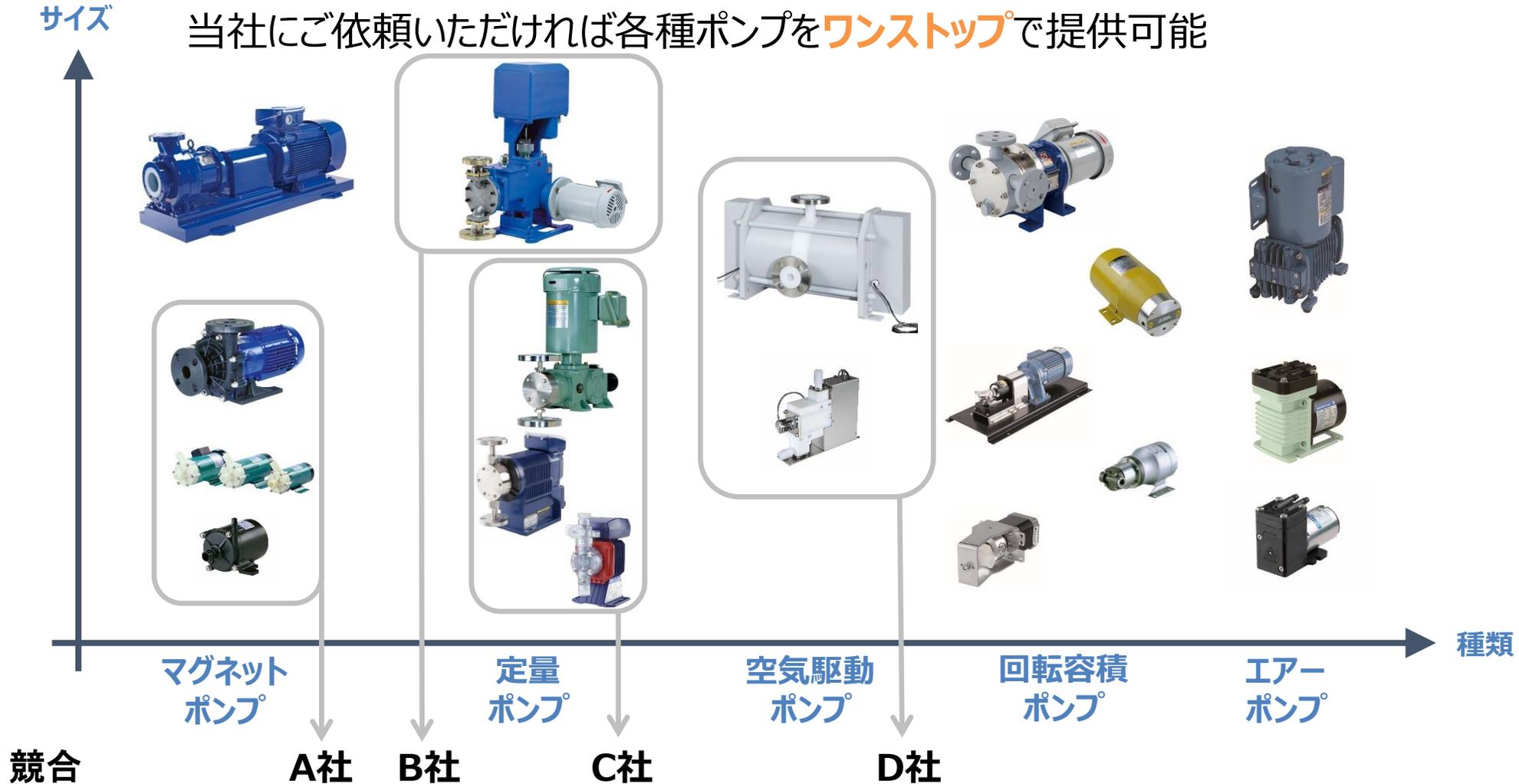
お客様への強力なサポートが可能な
世界規模の生産・販売・サポート体制

3

製品であるポンプを中心に
「流体を制御する」機能でソリューションも提供

5 当社の強み 豊富な製品ラインナップ

各種ポンプにおいて**60シリーズ以上、数万点にのぼる型式**を展開
当社にご依頼いただければ各種ポンプを**ワンストップ**で提供可能

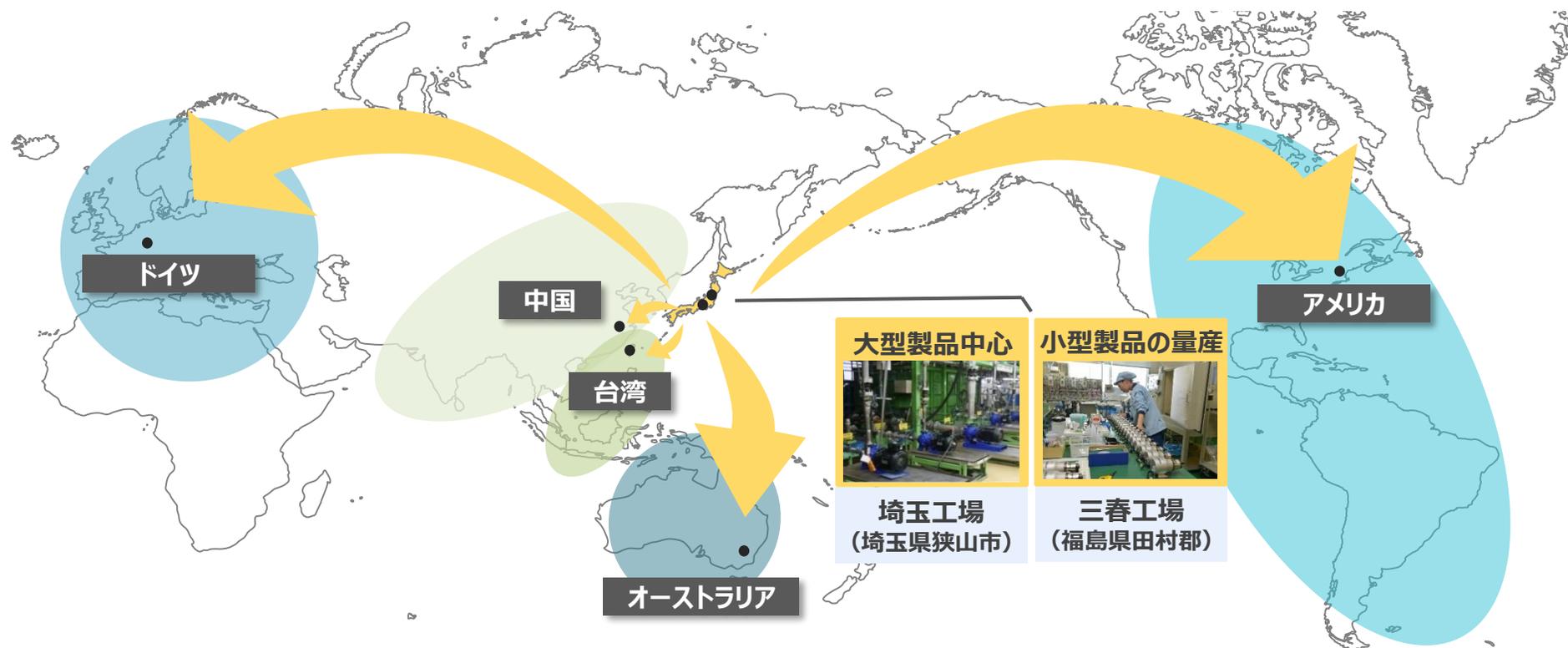


多品種少量生産を強みとしながら、年間約80万台の生産能力を有する

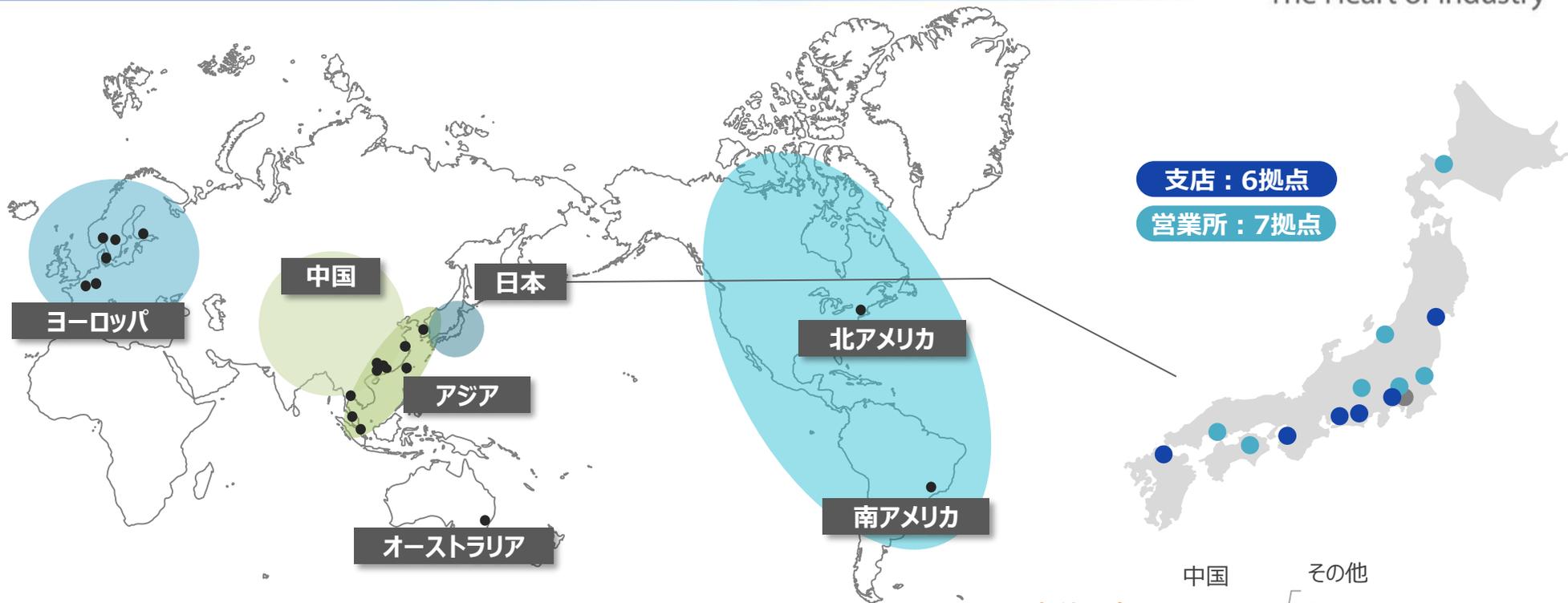
国内 … 多品種少量生産。強固な品質保証体制

海外 … 5拠点でのノックダウン生産*により短納期・在庫効率化

(*ノックダウン生産 … 当社で生産された製品の主要部品を輸出し、現地で組立する方式)

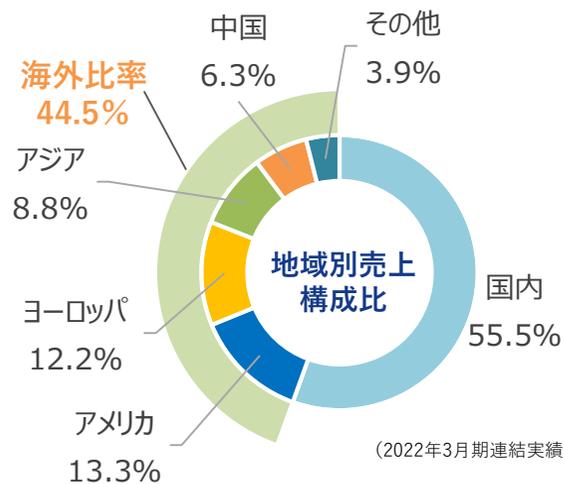


7 当社の強み 世界規模の販売・サポート体制



本社のほか国内主要13都市に支店・営業所を展開

15カ国21社のグループ会社で、ワールドワイドな販売・サービス網を構築



お客様のニーズにあったソリューションを
ポンプと流体制御ノウハウを活用し提供

当社



ポンプ



流体制御ノウハウ



解決して欲しい困りごと等の

ニーズ



ユーザー(お客様)

問題解決するための

ソリューション





The Heart of Industry

社会の発展と人々の幸福に寄与すべく、
これからも常に最前線で産業を支えてまいります。

【お問い合わせ先】

株式会社イワキ 経営管理本部 経営企画部

E-mail : ir@iwakipumps.jp

受付時間 : 9時～17時30分

(土曜・日曜・祝日・その他当社休業日を除く)

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

- この資料は投資家の参考に資するため、株式会社イワキ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、本日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。